Air Line Pilots' Association of JAPAN

ALPA Japan NEWS
日 乗 連 ニ ュ ー ス

Date 2023. 2. 9 46 AJN 13

発行：Air Line Pilots' Association of Japan
日本乗員組合連絡会議
AAP 委員会
〒144-0043
東京都大田区羽田 5-11-4
alpajapan.org

「ばんだい号事故慰霊碑」訪問記

半世紀前に発生した航空機事故

「ばんだい号墜落事故」という言葉を聞いて、パイロットの皆さんはそれをすぐに思い出すことが出来ますか？

「ばんだい号墜落事故」とは、1971 年 7 月 3 日、札幌丘珠空港を出発して函館空港へ向かった東亜国内航空（日本エアシステムの前身）TDA63 便（YS-11 型機）が、函館空港へ進入中に空港の北北西約 17km にある横津岳（標高 1,167m）山腹へ墜落し、搭乗していた乗員・乗客 68 名全員が死亡した、というものです。

この事故から 51 年が経過した 2022 年 10 月 22 日、日乗連 AAP 委員会のメンバーが墜落現場の横津岳（北海道亀田郡七飯町）に建立されている慰霊碑を訪問し、献花を捧げてきました。

混迷を極めた事故調査

事故当時は天候が悪く、最低気象条件の下限値に近い進入であったこと、さらには上空の風も強かったことが分かっています。当時の航空機運航を取り巻く環境は脆弱で、函館空港にはレーダー施設が整備されていませんでした。また、NDB（Non-Directional radio Beacon : 無指向性無線施設）を使用した NDB 進入方式が実施されていました。NDB 進入方式で函館空港へ進入を試みた当該パイロットは、管制機関に対して「函館空港の高度 6,000 フィート、ハイステーション（空港上空）通過」という交信を最後に消息を断ち、翌日、横津岳中腹に墜落したことが判明しました。

当時、ジエット旅客機にはフライトレコーダーやボスレコーダーの全機装備が義務付けられていましたが、プロペラ機である YS-11 型機にはまだそれらが搭載されていなかったこともあり、事故原因究明は難航を極めました。調査の過程で運航データと目撃証言に多くの矛盾があるなど決定的な証拠を欠いたことや、事故調査委員会で証言内容を取りまとめる委員の途中辞任や調査方法の問題点が指摘されるなど、色々と波乱含みでした。こうした過程を経てようやく発表された事故調査最終報告書に記された事故原因は、悪天候下で雲中飛行による進入を試み、さらに強風よって機体が進入経路から大きく外れたことによる」というものでした。

慰霊碑整備の課題

事故発生から約 1 年後、横津岳の墜落現場からほど近い山中に建立された「ばんだい号事故慰霊碑」には、亡くなった乗員乗客全員の氏名が刻まれています。

この慰霊碑にはやや入り込んだ登山道を登り、徒歩 30 分ほどで到着することが出来ます。慰霊に訪問した当日は天候に恵まれ、慰霊碑周辺からは横津岳山頂や函館空港、さらには津軽海峡対岸の下北半島も見渡せるほどの好天でした。こうした状況も天候条件の悪化により、大事故に繋がってしまう恐ろしさを慰霊に訪れた参加者全員は感じざるを得ませんでした。

この慰霊碑は、これまで地元有志の方々により整備作業や清掃等のボランティア活動が行われてきたことから現在も綺麗に整備されていますが、2021 年 7 月に執り行われた 51 回忌を区切りとして清掃活動は終了となるなど、今後の維持管理に課題があることが明らかになっています。事故発生から半世紀が経過し事故の風化が憂慮されることから、我々航空関係者は、ばんだい号墜落事故という出来事を決して風化させてはならない取り組みが必要です。

最後に

1960 年代から 1970 年代初頭にかけて、日本の航空機運航を取り巻く環境は極めて脆弱で、ばんだい号をはじめ、数多くの悲惨な航空機事故が発生しました。その後、技術の進歩によって航空保安無線施設は NDB から VOR（VHF Omni-directional Range）や ILS（Instrument Landing System）へと進化しました。また航空機の位置を把握するためのシステムも、IRU（Inertial Reference Unit）のみから DME（Distance Measurement Equipment）の活用によって正確性が向上しました。そして 21 世紀も 20 年が経過した今、航空機を取り巻くシステムはますます進化し、航法の中心は水平方向だけでなく垂直方向も GPS（Global Positioning System）による衛星航法へと変化し、位置情報の確認も GPS によってサポートされています。この結果、航空機の安全性が飛躍的に向上して航空機事故が激減したのはご存知の通りです。

＜綺麗に整備されている慰霊碑の前で＞

現在、航空機を運航する私たちは、GPS 情報の恩恵を受けて安全に航空機を飛ばすことが叶っていますが、これには民間航空機の黎明期における脆弱な運航環境下で、多くの人命が犠牲となったことを決して忘れてはなりません。

今回の慰霊碑を訪問した参加者はそのことを改めて認識し、更なる安全運航に邁進することを皆で誓うことが出来たという意味で、非常に意義深いものになりました。

以 上